

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「知恵だせ 汗だせ 明るい子」
 ○自分の課題をもち、その解決に向けて取り組み、学び続ける力を育てます。(知)
 ○自分や友達よさを認め合い、自己肯定感や自己有用感を育てます。(徳)
 ○自分の生活を見つめ、心身の健康増進する力を育てます。(体)
 ○地域の人やものを大切に、共に生きていく力を育てます。(公)
 ○多様性を尊重し、社会と進んでかかわる力を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

〈自分づくりに関する能力〉
〈問題発見・解決能力〉

・主体性・積極性 ・他者を理解する態度 ・自己を理解する姿勢
 ・解決策を実行する力 ・問題の課程を振り返る力

中期取組目標

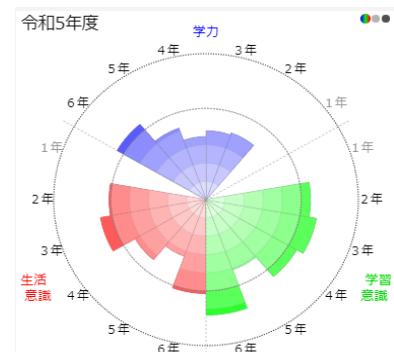
○他者との関わりを通して、自己有用感を高める学びを充実させます。
 ・1年目は特に学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進します。
 ・2年目は他者と学ぶ楽しさを実感し、主体的に学ぶ力を育てます。
 ・3年目は豊かな学習体験を繰り返すことで、自己有用感を高めることができるようにします。
 ○竹山の「まち」や「人」との活動を通してつながりを意識し、竹山の「まち」を愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①「自ら進んで学ぶ子を目指して～相手意識、目的意識をもって、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり～」のテーマで授業研究を進め、学ぶ楽しさを実感できる授業改善を図る。 ②基礎・基本の定着を図るために、授業のユニバーサルデザイン化を図る。
担当	重点研推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

①昨年度の学校評価アンケートから
 児童は友達と一緒に学ぶ楽しさを実感しながら日々の学習に取り組んでいることがわかった。教職員は、研究テーマに沿って「相手意識・目的意識」を明確にしながら子どもが分かる授業を行っている。今後は、子どもたちが楽しみながら学習ができる授業づくりとともに、ユニバーサルデザインを意識した授業改善が必要であると考えます。
 ②横浜市学力・学習状況調査の結果から
 学力に関しては、横浜市の平均を下回っているが、学習意識は市の平均を上回っている学年が多い。



今年度の目標

相手意識、目的意識をもって、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・「相手意識、目的意識をもって、学ぶ楽しさを実感できる授業」を目指し、講師の先生を招いて授業研究会を行う。
 ・相手意識、目的意識をもった授業構成・単元構成を行う。
 ・指導事項に合った言語活動を明確にする。
 ・授業研究会の前に、2回の指導案検討を設定し、子どもの立場で実際に言語活動を行う。
 ・毎時間、「わ(わかったこと)が(がんばったこと)と(友達の良かったところ)も(もつと学習してみたいこと)」の視点で振り返りを書く時間を設け、子ども自身が考えを整理したり、担任が子どもの考えを把握したりできるようにする。
 ・黒板の周りをすっきりさせ、刺激の少ない環境での学習を進める。
 ・単元計画を掲示し「見える化」することで、学習の見通しをもてるようにする。
 下半期
 ・スマイルネクスト(3～6年生)や家庭学習で既習事項を繰り返し学んでいくことで、年間を通して基礎基本の定着を図る。
 ・学習状況調査の結果を分析し、調査結果を日々の授業改善に活かす。
 ・鴨居中学校ブロックでの研究授業内容や研究協議会で話し合ったことを授業に活かす。
 ・子どもたちが楽しく学び、「わかる・できる」授業に近づいているか、学習スタンダードをブロック研等で定期的に確認する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①道徳教育全体計画を基に、自分や友達よさに気付いたり、社会的スキルを身に付けたりして、自己肯定感や自己有用感を高めていく。②様々な「ひと・もの・こと」にかかわり、体験的な活動を通して、自己有用感を高め、自他を認め合う心を育てる。
担当	道徳部 児童指導・人権

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
 ○YPアンケート結果より
 本校では、アンケート実施後に、学級分布図、プロフィール表をブロックごとに活用している。その結果、ほとんどの学年で、高自己評価群、低自己評価群に属する児童が多く、二極化している。
 ○学校アンケート結果より
 自分や友達よいところが気がつくことができている。よいことに気づくことができている一方で、自分自信がだれかの役に立てたと感じることができていない児童が一定数見られる。そのため、社会的スキルを身につけたり、自己有用感を高める場を学校と家庭が協力して設けたりする必要があると考える。
 (2)これまでの学校の取組状況
 ○縦割り活動、まちとの交流
 休み時間に縦割りで関わる時間を年に数回実施した。1、2、3年生の遠足は、縦割りのグループで活動した。
 ○横浜プログラム
 年に2回全校で実施をした。どの学年も児童が主体的に取り組み、自分を客観的に見る機会となった。

今年度の目標

○自分への関心を高め、なりたい自分をイメージし、自分の良さに気付く。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ①主体的に対話的な道徳科の授業を目指して、児童が自分事として学習に取り組めるような授業づくりをする。また、職員研修を行い、道徳教育に対する職員の理解を深める。
 ②年度初めにYPアンケートを実施し、子どもたちの現状や学級風土をつかむ。その結果をもとに、ブロックで年間の横浜プログラム実施の計画を立て、活用する。
 下半期
 ①ブロック研等を利用し、指導方法や教材活用方法を研究し、授業力を高める。
 ②上半期に引き続き、ブロックでの計画をもとに横浜プログラムを実施する。年内に2回目のYPアンケートを実施し、子どもたちや学級風土の変化を見取る。年度末に向けて、学級づくりや授業改善に生かす。
 ③福祉に関わる体験的な活動をブロックごとに取り組むことで、地域との関わりを深める。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①体育の学習や、朝のラジオ体操、縄跳び、マラソン等の活動を通して、体力向上を図る。 ②学校保健委員会等の活動を通して、自分の健康状態を把握して、健康を意識した生活を送るようにする。
担当	健康・安全教育

健やかな体に関わる本校の状況

①昨年度の学校評価アンケートから
 体育の授業や体力向上の取組では、楽しく体を動かすことができている。ただ、普段の休み時間の様子からも自ら進んで体を動かすことができていない児童も少なくない。
 ②昨年度の歯磨き検査より
 A「よくみがけているの」割合が、市の平均と比べて15%下回っている。また、BC「みがきのこしがある」が市の平均を上回っている。
 ③横浜市体力調査から
 学年によって差はあるが、体力・運動能力が市の平均を下回っている学年が多く見られる。一方で生活実態調査では、市の平均と同じくらいの値となっている。この結果からも、体を動かす機会と意図的に設ける必要がある。

今年度の目標

○自分自身の健康についての関心を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○ラジオ体操や縄跳び等、体力向上の活動を通して、運動習慣の定着を図り、ブロックで成果を共有する。自分で変化を実感できるようにする。
 ○食育を含めた「基本的な生活習慣」の定着の重要性について、保健だよりや朝会を活用し、児童・保護者への周知を図る。
 下半期
 ○定期的な健康カレンダーやはみがきカレンダーを活用した健康教育を通じて児童の自分自身の健康への関心を高め、児童自身が振り返る。
 ○学校保健委員会の活動を通して児童自身の健康に関する意識を高め、全校に発信できる機会を設定する。

